

基本目標	基本目標達成を支える基盤整備	数値目標	-	-
			-	-

施策No.	基本的方向				評価実施年度		
13	市民交流拠点の整備など市民の文化活動が活発に行える場を充実し、文化活動に参加する市民を拡大します。				2026		R08
具体的な施策	県立三崎高等学校跡地について、市民交流センターや図書館等の公共的機能と民間施設から成る「市民交流拠点」として利活用を図るため、民間事業者と協働し段階的に整備します。				評価担当部課	市長室	
事業名	市民交流拠点整備事業	事業費	年度	事業費予算額 (千円)	事業費決算額 (千円)	予算執行率	
			R03	205,663	166,123	80.8%	
			R04	145,820	142,694	97.9%	
			R05	167,597	111,908	66.8%	
			R06	843,889	367,035	43.5%	
			R07	2,445,812	899,720	36.8%	
			計	3,808,781	1,687,480		

内部評価（１次評価）												
R7年度（実績） と工夫（主な取組）	1：市民交流拠点整備事業 ・三浦市市民交流拠点整備事業用地（引橋B2地区）における三浦市市民交流拠点整備事業公共施設建設工事（設計・施工一括）について、基礎工事や鉄骨建方工事が完了し、外壁・内装・外構工事等に着手した。 また、民間施設等整備用地に関する定期借地権設定契約の締結に向けて、事業者等と協議を行った。											
	構成事業の令和7年度の主な取組と成果											
No.	事業名		主な取組・成果		No.	事業名		主な取組・成果				
1	市民交流拠点整備事業		本庁舎等建設に関する工事の実施：1件 引橋B2地区内における定期借地権設定契約等の締結：0件									
K P I の進捗状況												
年	K P I ①		K P I ②		K P I ③							
	三崎高校跡地B地区の整備に向けた進捗	備考		備考								
H29		－実績値										
H30		－実績値										
R01		－実績値										
R02		－実績値										
R03	未実施	実績値										
R04	事業者募集	実績値										
R05	事業者契約	実績値										
R06	（基盤整備の工事実施）	実績値										
R07	事業者による工事着工	実績値										
R07	事業者による工事着工	目標値										
達成状況	○											
のK分P析I	・新庁舎等の工事着工を令和6年度中に達成した。											
今後のK P I		現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標				R11目標	R12目標	単位
三浦市市民交流拠点整備事業用地（引橋B2地区）の整備に向けた進捗		—	—	公共施設の建設工事の完了	民間施設・図書館の建設工事の完了	—				—	—	—

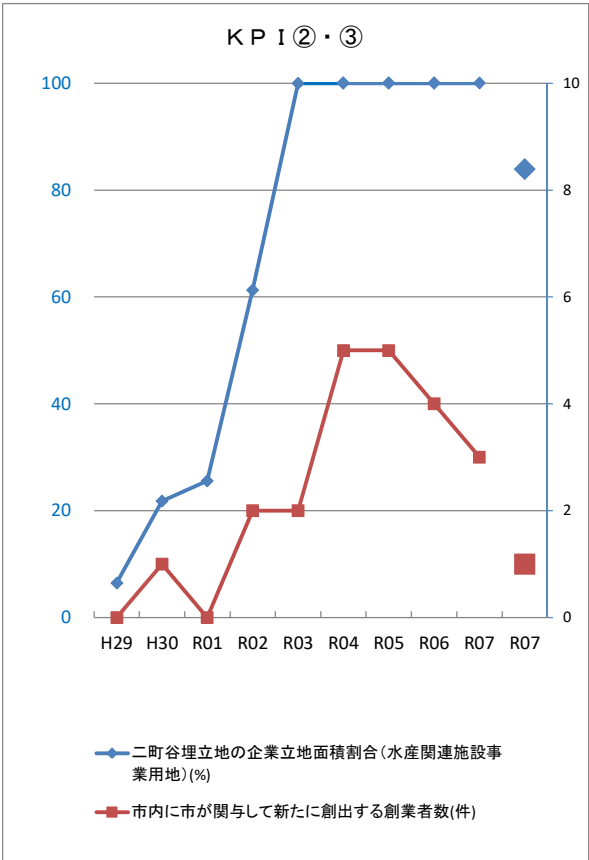
K P I 達成 の 改 善 策 ・ 手 法	KPI達成に向けた課題 1：市民交流拠点整備事業 ・公共施設の建設工事完了に向け、工程管理等を綿密に行う必要がある。 ・民間施設及び図書館の整備方針について、令和8年度中に決定し、その上で整備スケジュールを立案していく必要がある。
	今後行う改善策・手法 1：市民交流拠点整備事業 ・工程管理を綿密に行い、変更工期（令和9年3月19日）までに新庁舎等の建設工事を完了し、市役所等の移転に取り組んでいく。 ・民間施設等整備用地に関する定期借地権設定契約の締結に向けて、事業者と連携・協力して取り組んでいく。
内部評価結果	
施策 の 評価	5 目標達成しています。

外部評価（2次評価）			
施策 の 評価	5 目標達成しています。	主 な 意 見	・ 主な意見なし

基本目標	基本目標1：「三浦市における安定した雇用を創出する」就職を契機に市外に転出することの多い若者や、転入しようとする人たちが、少しでも多く市内で就職することができるよう、観光業・農業・漁業など市内の主要産業の活性化を図り、雇用の場を確保します。 また、二町谷地区等への企業誘致により、新たな雇用の創出を図ります。	数値目標	個人市民税納税義務者数（給与所得者、営業所得者、農業所得者の数）【R07目標値】15,500人 【R03実績】16,113人 【R04実績】15,956人 【R05実績】15,944人 【R06実績】15,814人 【R07実績】15,842人

施策No.	基本的方向				評価実施年度	2026	R08
2	市内への企業誘致に取り組むとともに、新規や既存の事業者の経営支援や企業間交流の機会づくりなど、営業を継続しやすい環境を整備し、事業活動の活性化を図ります。						
具体的な施策	新たな雇用創出と地域の活性化を目的とした「三浦市二町谷地区海業振興を目指す用地活用プロジェクト」に基づき、事業者による事業が円滑に進むよう、引き続き事業者と連携を図っていきます。 旧三崎中学校跡地等城山地区事業用地の利活用に向けた取組を進めます。 また、営業の継続による地域経済の活性化を図るため、創業や事業承継を支援するためのセミナーの開催や相談対応を行うとともに、中小企業の経営健全化と事業拡大による市内経済の活性化を図るため、神奈川県中小企業制度融資を受けた事業者に対し、補助を行います。				評価担当部課	市長室 経済部 観光商工課	
事業名	企業等誘致プロモーション事業 城山地区利活用事業 創業・事業承継等中小企業支援事業		事業費	年度			事業費予算額 (千円)
				R03	20,371	5,471	26.9%
				R04	16,248	13,153	81.0%
				R05	3,651	1,469	40.2%
				R06	1,419	746	52.6%
				R07	1,147	1,024	89.3%
				計	42,836	21,863	

内部評価（1次評価）							
R7年度の主な取組と工夫 (実績)	1：企業等誘致プロモーション事業 ・二町谷地区における海業プロジェクトを推進するため、海の玄関口として整備した二町谷浮棧橋と事業用地を繋ぐ西側荷捌き施設等の活用手法等について関係機関との協議を行った。						
	2：城山地区活用事業 ・令和5年度に売却が完了した旧三浦市福祉会館と旧三崎中学校体育館の利活用に向け、旧三浦市福祉会館の利活用に関する支援を行った。						
	3：創業・事業承継等中小企業支援事業 ・三浦商工会議所や地域金融機関等と連携して、創業を希望している方や創業後間もない方等を対象とした「創業認定セミナー」を開催した。（参加者16名） ・また、横須賀市等と連携して、事業承継を控えた若手後継者、創業希望者や創業後間もない方を対象とした「新規事業開発無料セミナー」を開催し、事業承継の推進、創業の支援を図った。（三浦市に事業所がある参加者2名） ・創業支援等事業計画に基づき、国・県・市の支援施策の紹介や商工会議所等の支援機関の紹介を行った。また、特定創業支援等事業の要件を満たした者を市が証明することで、会社設立時の登録免許税軽減等の様々な支援を受けることができる制度を、相談の際や市ホームページで周知し、証明の発行を行った。 ・神奈川県信用保証協会の保証を受けて、小規模クイック融資、小口零細企業保証資金、創業支援融資及び事業承継関連融資を受けた事業者に対し、払い込んだ信用保証料の1/2（限度額あり）を補助し、中小企業者が融資を受けやすい環境づくりを行い、経営の健全化を図った。						
構成事業の令和7年度の主な取組と成果							
No.	事業名	主な取組・成果		No.	事業名	主な取組・成果	
1	企業等誘致プロモーション事業	西側荷捌き施設等の活用に関する協議：1件		2	城山地区利活用事業	事業者が行う対象用地利活用の支援：1件	
3	創業・事業承継等中小企業支援事業	セミナーの開催：2回 補助金交付：17件					

K P I の進捗状況									
年	K P I ①		K P I ②		K P I ③		K P I 推移グラフ		
	二町谷埋立地の企業立地達成状況（多目的活用事業用地）	備考	二町谷埋立地の企業立地面積割合（水産関連施設事業用地）（%）	備考	市内に市が関与して新たに創出する創業者数（件）	備考			
H29	—	実績値	6.5	実績値		実績値			
H30	—	実績値	21.8	実績値	1	実績値			
R01	—	実績値	25.6	実績値		実績値			
R02	—	実績値	61.3	実績値	2	実績値			
R03	浮栈橋の供用開始及び事業者による北公園の整備	実績値	100.0	実績値	2	実績値			
R04	事業者による浮栈橋の管理棟設置	実績値	100.0	実績値	5	実績値			
R05	事業者によるPRイベントの開催	実績値	100.0	実績値	5	実績値			
R06	事業者による小規模宿泊施設の工事未着工	実績値	100.0	実績値	4	実績値			
R07	事業者による小規模宿泊施設の工事未着工	実績値	100.0	実績値	3	実績値			
R07	事業者による小規模宿泊施設の開業	目標値	83.9	目標値	1	目標値			
達成状況	×		○		○		(※R07の「点」は、目標値となります。)		
K P I の分析	KPI① ・事業者が基本計画を策定している段階であるため、多目的活用事業用地における施設整備着工には至らなかった。		KPI② ・水産関連事業用地では、令和3年度中にすべての用地について契約を締結した。		KPI③ ・8か所の創業支援機関のうち、ワンストップ相談窓口である三浦商工会議所外4機関において、1か月以上にわたり4回以上、経営・財務・人材育成・販路開拓の支援を受け、創業支援カルテで確認できる者を特定創業支援等事業の要件を満たした者として三浦市が証明書を発行している。 ・市ホームページについて、証明書発行のメリットや手続を分かりやすく説明するなど、ユーザー目線に立った改善を行うなどにより、証明書発行件数は令和6年度7件に対し、令和7年度は10件と増加し、うち創業した者も3件で目標を上回った。				
今後のK P I		現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位
「新海業プロジェクト」に関する令和8年度以降の本格可動までの進捗率		—	—	20	40	50	60	60	%

KPI達成に向けた課題と今後の改善策・手法	KPI達成に向けた課題 1：企業等誘致プロモーション事業 ・二町谷地区多目的活用事業用地における企業立地を推進する必要がある。 2：城山地区利活用事業 ・令和5年度に売却した事業用地の利活用を推進する必要がある。 3：創業・事業承継等中小企業支援事業 ・セミナーや補助を継続的に実施すること。
	今後行う改善策・手法 1：企業等誘致プロモーション事業 ・事業者と二町谷地区多目的事業用地の宿泊施設等の整備に向けたスケジュールの協議を行うとともに、事業が円滑に進むよう必要な支援を行う。 2：城山地区利活用事業 ・継続して、事業が円滑に進むよう必要な支援を行う。 3：創業・事業承継等中小企業支援事業 ・引き続き、三浦商工会議所、地域金融機関及び神奈川産業振興センターと連携し、創業支援と事業承継に関する相談窓口の充実を図るとともに、横須賀市と共同で、市内の事業者、事業継承予定者、創業者が新規事業を実現させるためのセミナー「Yomiivo 2026」を開催する。 ・中小企業の経営健全化、事業の拡大、雇用の創出及び継続のため、神奈川県信用保証協会の保証を受けて小規模クイック融資、小口零細企業保証資金、事業承継関連融資、創業支援融資、事業振興融資を受けた事業者に対し、信用保証料の一部を助成する信用保証料補助を実施する。 ・令和8年度から特定創業支援等事業の要件を満たした者に対する証明書発行について、新たに電子申請での受付を開始し、申請しやすい環境づくりを行う。
内部評価結果	
施策の評価	4 目標は一部達成し、課題改善の取組も明確です。

外部評価（2次評価）			
施策の評価	4 目標は一部達成し、課題改善の取組も明確です。	主な意見	・事業の取組状況などの情報が見えにくいので、市民へのより明確な情報発信をお願いします。

基本目標	基本目標1：「三浦市における安定した雇用を創出する」 就職を契機に市外に転出することの多い若者や、転入しようとする人たちが、少しでも多く市内で就職することができるよう、観光業・農業・漁業など市内の主要産業の活性化を図り、雇用の場を確保します。 また、二町谷地区等への企業誘致により、新たな雇用の創出を図ります。	数値目標	個人市民税納税義務者数（給与所得者、営業等所得者、農業所得者の数）【R07目標値】15,500人 【R03実績】16,113人 【R04実績】15,956人 【R05実績】15,944人 【R06実績】15,814人 【R07実績】15,842人

施策No.	基本的方向				評価実施年度	
1	農業、漁業、観光業の連携による観光振興や三浦ブランドの開発など、市内外の事業者の取組みや、異業種間の交流を支援し、6次経済の構築を進めます。 市外での物産展出演や市内での各種イベントの開催等のシティ・セールス実践活動により三浦市の魅力を発信するとともに、集客力をさらに向上させます。 もてなしをテーマとする人材育成や市民活動を促進し、もてなしの活動に協力・参加している市民を増やします。 観光施設、回遊ルート、観光案内表示板等の集客に必要な環境や、駐車場や公衆トイレ等の便利で快適な環境を適切に維持・向上させ、集客力をさらに強化します。				2026	R08
	具体的な施策				評価担当部課	経済部 観光商工課 もてなし課 海業水産課 市長室
事業名	海業推進事業 みうらシティ・セールス事業 みうらの魅力発信事業 観光の核づくり推進事業 観光の核づくり推進事業（道路） 観光の核づくり推進事業（公園） 地域観光振興・情報発信事業 観光団体支援事業 観光解説板整備事業 三崎下町地区駐車場対策事業 観光インフォメーションセンター管理事業 観光の核づくり推進事業（広場） 三浦海岸海水浴場再生事業（※R07から開始）	事業費	年度	事業費予算額 （千円）	事業費決算額 （千円）	予算執行率
			R03	49,345	43,992	89.2%
			R04	337,702	318,745	94.4%
			R05	345,549	241,760	70.0%
			R06	216,166	169,378	78.4%
			R07	263,666	188,630	71.5%
			計	1,212,428	962,505	

内部評価（1次評価）	
R 7 年 度 の 主 績 な 取 組 と 工 夫	1：海業推進事業 ・海の駅の魅力・まちの魅力を広域的に発信することを目的として㈱三浦海業公社が実施する「みうら・みさき海の駅“うらり”セールスプロモーション」を支援した。 ・うらりマルシェを拠点とするイベントとしては、海業発祥のまちとして情報発信を行う「海業フェスタ@みうらみさき海の駅」が開催され、他にもうらりマルシェのデッキをを活用した集客イベントが開催された。 ・また、姉妹都市である須坂市や道の駅・海の駅との連携による集客プロモーションイベントが実施された。 ・海外富裕層の会員制施設である「東京アメリカンクラブ」のイベントでマグロの解体ショーを実施し、併せて三浦市及びうらりマルシェのプロモーションも実施し、うらりマルシェ及び三浦市への集客促進を図った。
	2：みうらシティ・セールス事業 ・教育旅行向けの料金と一般客向けの料金を併記したパンフレット「三浦市体験アクティビティのご案内」を作成し、三浦市への送客実績のある旅行会社を中心に、資料送付による営業を行った。 ・教育旅行受入れ172校（前年度167校 前々年度152校）
	3：みうらの魅力発信事業 【ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会】 ・横須賀市津久井浜海岸で開催される「ウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会」の実行委員会に参画し、大会を開催した。（会場来場者数38,000人） 【地場産品消費拡大】 市外、県外の消費者にまぐろ・野菜等の三浦市の特産品を広く宣伝するとともに、ふるさと納税制度を活用した地場産品のPRを行うため、三浦市地場産品消費拡大協議会と連携して物産展に参加した。 【みうら夜市】 ・「みうらの食」と昭和の趣を残す「港町三崎のまちなみ」をコンテンツとし、みうらファンの獲得を図ることを目的とした「みうら夜市」を開催した。 ・新企画として「みうらワンハンドフードフェス」を同時開催し、両イベントの相乗効果を図った。（来場者数37,000人） 【三浦国際市民マラソン】 ・全国から参加されるランナーや応援の方々を心から歓迎し、大会を開催した。（来場者数86,000人） 【三崎木遣みこしパレード】 ・第4回目となる「三崎木遣みこしパレード」に協力、支援し、下町全体が賑わいと活気に満ちた一日となった。（来場者数5,000人）
	4：観光の核づくり推進事業 ・城ヶ島西部地区のまちづくりについては、市道1530号拡幅整備及び城ヶ島西部地区広場整備に必要な関係機関との協議を実施した。 ・三崎漁港へのスーパーヨット誘致については、「MIURA RENDEZVOUS 2025」開催時に、試行的に80フィート以上のクルーザー3隻を、二町谷浮桟橋第1号に係留した。
	5、6、12：観光の核づくり推進事業（道路、公園、広場） 【道路】 ・城ヶ島西部地区のまちづくりを推進するため、市道1530号拡幅整備及び拡幅整備に必要な用地取得に向けた協議を行ったが、取得には至らなかった。 ・市道1530号拡幅整備工事を3箇所実施した。 【公園】 ・城ヶ島西部地区のまちづくりを推進するため、城ヶ島灯台公園整備工事を実施したが、関連する他の工事とのスケジュール調整により工期を延長したため繰り越した。 【広場】 ・城ヶ島西部地区のまちづくりを推進するため、神奈川県から広場整備に必要な用地を取得した。 ・なお、用地取得に関する隣接地権者等との協議に時間を要し設計業務は繰り越した。
	7：地域観光振興・情報発信事業 ・地域観光行事では、道寸祭り、みさき白秋まつり、三浦海岸納涼まつり花火大会、三崎港町まつり及び三浦海岸桜まつりのイベント開催支援を行った。 ・集客促進に資する事業では、三浦海岸海水浴場の開設期間中に「三浦海岸アートフェスティバル」を開催し、海水浴目的以外での三浦海岸エリアへの来訪のきっかけづくりをするとともに、エリア内の周遊促進を図った。
	9：観光解説板整備事業 ・観光客の回遊性の向上と滞在時間の延長による観光客消費額の増加を図るため、平成30年度に策定した「ぐるっと三浦・まちなかトータルサインプラン」に基づき、解説板を1基（矢の根井戸）撤去し、解説板1基（琴音の磯）をサインタワー（二次元コードを印字）に更新した。

13：三浦海岸海水浴場再生事業

令和5年度まで民間団体により設置されていた三浦海岸海水浴場を市により設置するとともに海水浴場設置期間中、賑わい創出のための各種取組を実施し、105,802人を集客した。

構成事業の令和7年度の主な取組と成果

No.	事業名	主な取組・成果	No.	事業名	主な取組・成果
1	海業推進事業	市外向けプロモーションイベントの実施：1回	2	みうらシティ・セールス事業	教育旅行受入れ：172校 観光バスうらり駐車台数：1,123台 インバウンドツアー及び海外からの修学旅行受入れ：0件
3	みうらの魅力発信事業	ウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会の開催：1回 営業出展の実施：8回 みうら夜市の開催：1回 三浦国際市民マラソンの開催：1回 三崎木遣みこしパレードの開催：1回	4	観光の核づくり推進事業	城ヶ島西部地区まちづくりプロジェクトの推進に必要な関係機関との調整：1件 スーパーヨットの誘致活動の実施：1件
5	観光の核づくり推進事業（道路）	市道1530号拡幅整備の推進：整備率88.2%	6	観光の核づくり推進事業（公園）	城ヶ島灯台公園整備の推進：整備率0%
7	地域観光振興・情報発信事業	イベント開催支援：5件 観光資源を活用した集客促進事業：1件	8	観光団体支援事業	補助金交付：1件
9	観光解説板整備事業	観光解説板の撤去：1基 観光解説板の更新：1基	10	三崎下町地区駐車場対策事業	新たな駐車場スペース確保に向けた検討：1件 臨時駐車場確保：1箇所
11	観光インフォメーションセンター管理事業	観光案内所窓口運営：2箇所	12	観光の核づくり推進事業（広場）	詳細設計の完了：0件
13	三浦海岸海水浴場再生事業	新たな魅力を備えた三浦海岸海水浴場の設置：1件	14		

K P I の進捗状況								
年	K P I ①		K P I ②		K P I ③		K P I の分析	
	入込観光客総数（人）	備考	観光客消費額（千円）	備考				
H29	6,311,000	実績値	14,029,501	実績値			・コロナ禍の影響があった令和2年の実績見込みを令和3年の目標とし、令和8年までの5年間でコロナ前の水準に戻すことを想定して目標を設定した。 KPI① ・令和7年の実績（内訳）は以下のとおり。 (1) 宿 泊：実績272,000人 （前年比-3,800人 -1.4%） (2) 日帰り：実績4,693,000人 （前年比+454,500人 +10.7%） (3) 合 計：実績4,965,000人 （前年比+450,700人 +10.0%） ・入込観光客総数は、コロナ禍により大きく減少した令和2年以降、増加傾向で推移してきた。 ・令和6年には、三浦海岸海水浴場不開設等の影響により、一度減少したものの、同海水浴場の再開や、三浦海岸桜まつりの来場者数増加等により、令和7年は再度増加となった。 KPI② ・令和7年の実績（内訳）は以下のとおり。 (1) 宿 泊：実績2,654,498千円 （前年比+200,365千円 +8.2%） (2) 日帰り：実績7,391,969千円 （前年比+1,164,011千円 +18.7%） (3) 合 計：実績10,046,467千円 （前年比+1,364,376千円 +15.7%） ・観光客消費額は、令和3年以降増加傾向で推移してきたが、KPI①と同様に令和6年に減少し、令和7年には再度増加した。 ・宿泊者数が減少した一方で宿泊者消費額は増加しており、物価高騰等に伴い消費額が増加したものと思われる。 ・K P I の達成率では、観光客数は89.0%、消費額は86.5%と、消費額の方が低くなっている。 ・K P I は新型コロナウイルス感染症感染拡大前の水準に戻すことを目指しているが、市内宿泊施設の受入人数が減少していることが、消費額の達成率が低かった要因の1つであると考えられる。	
H30	6,370,900	実績値	14,034,471	実績値				
R01	6,139,600	実績値	13,115,183	実績値				
R02	4,017,500	実績値	7,170,679	実績値				
R03	4,208,200	実績値	7,153,673	実績値				
R04	4,211,100	実績値	7,888,254	実績値				
R05	4,708,800	実績値	8,896,831	実績値				
R06	4,514,300	実績値	8,682,091	実績値				
R07	4,965,000	実績値	10,046,467	実績値				
R07	5,577,000	目標値	11,620,000	目標値				
達成状況	×		×					
K P I 推移グラフ								
	(※R07の「点」は、目標値となります。)							
今後の K P I	現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位
入込観光客総数	4,514,300	R 6 実績	4,800,000	4,951,000	5,105,000	5,265,000	5,429,000	人
観光客消費額	8,682,091	R 6 実績	9,590,000	10,079,000	10,593,000	11,134,000	11,701,000	千円

K P I 達 成 に 向 け た 課 題 と 今 後 の 改 善 策 ・ 手 法	KPI達成に向けた課題 ・コロナ禍以降、入込観光客数及び観光客消費額は概ね増加傾向で推移してきたが、コロナ禍以前の水準には至っていない。今後も引き続き増加傾向を維持していくためには、イベント等への対策と継続した集客プロモーションが必要である。 2：みうらシティ・セールス事業 ・幅広い集客につながるような営業手法を実施すること。 ・インバウンドに効果的に取り組むこと。 3：みうらの魅力発信事業 ・イベントの開催に当たっては、物価高騰が続いており、従来と同じような手法での開催は難しくなっていること。 ・イベントを開催し、一年を通じて定期的に来訪するきっかけづくりを進めること。 4、5、6、12：観光の核づくり推進事業（道路、公園、広場） ・城ヶ島西部地区の魅力向上を図り、集客力を強化する必要がある。 7：地域観光振興・情報発信事業 ・地域観光行事が安定的に開催されるよう各行事を継続的に支援すること。 ・観光資源を活用した新たな取組を実施すること。 12：三浦海岸海水浴場再生事業 ・長年賑わいを生み出してきた三浦海岸海水浴場をはじめ、年間を通じた三浦海岸の利活用を通じて観光誘客を図ること。
	今後行う改善策・手法 1：海業推進事業 ・「海業発祥のまち」として、「海業」を前面に打ち出した集客プロモーション等をメディアを活用し効果的に取り組むことにより、入込観光客数の増加と観光客消費額の増加を図る。 2：みうらシティ・セールス事業 ・教育旅行のみならず、一般客向けの情報も盛り込んだパンフレットを作成し、ターゲットとなる都内や県内を中心にシティ・セールスを行い、持続的かつ効果的な誘客に努める。 ・インバウンドでは、県や他自治体と協働し、台湾など日本へのリピート率の高い国や地域をターゲットに取り組む。 3：みうらの魅力発信事業 ・既存の手法に拘らず、新たな手法についても積極的に検討し、新たな地域資源を生かした体験プログラムの造成等を含め新規性・独自性のある魅力的なイベントの開催に努める。 4、5、6、12：観光の核づくり推進事業（道路、公園、広場） ・道路、公園、広場整備等を着実に進めるとともに、R8.2月に開業したふふ城ヶ島と連携し、地域の魅力向上と集客力の強化を図る。 7：地域観光振興・情報発信事業 ・地域観光行事の収支状況や成果等を踏まえ、各行事への支援拡充を検討する。 ・令和8年度の集客促進に資する事業としては、令和7年度に実施された「三浦海岸アートフェスティバル」を引き続き三浦海岸海水浴場期間中に実施する。 ・また、海水浴場期間中に三浦海岸駅から海水浴場までの誘導を図るとともに来場者の高揚感を高めるため、新たにコミュニティ助成金を活用し、三浦海岸アートフェスティバル実行委員会が主催する「海・風・まちのフラッグカーニバル」を支援する。 13：三浦海岸海水浴場再生事業 ・令和8年度は、昨年度に引き続き「MIURA FUN BEACH三浦海岸」という愛称のもと、新たに「風がぬける、心がひらく」というキャッチコピーを加え、ファミリービーチ・三浦海岸としてより楽しく、快適にお過ごしいただけるよう新たな取組を展開する。 ・具体的には、ストレッチャ Tent（有料休憩スペース）の改良、「けいきゅう砂遊びスペース」新設、映画『ミニオンズ&モンスターズ』とのスペシャルコラボ企画の展開、ボードウォークの設置、ライフジャケット／ウォーターウィールの無料貸出等を実施する。 ・また、秋から冬の賑わい創出イベントも実施する。

内部評価結果	
施策 の 評価	3 目標は全て未達成ですが、課題改善の取組が明確です。

外部評価（２次評価）			
施策 の 評価	3 目標は全て未達成ですが、課題改善の取組が明確です。	主な 意見	・ 主な意見なし

基本目標	基本目標1：「三浦市における安定した雇用を創出する」 就職を契機に市外に転出することの多い若者や、転入しようとする人たちが、少しでも多く市内で就職することができるよう、観光業・農業・漁業など市内の主要産業の活性化を図り、雇用の場を確保します。 また、二町谷地区等への企業誘致により、新たな雇用の創出を図ります。	数値目標	個人市民税納税義務者数（給与所得者、営業所得者、農業所得者の数）【R07目標値】15,500人 【R03実績】16,113人 【R04実績】15,956人 【R05実績】15,944人 【R06実績】15,814人 【R07実績】15,842人

施策No.	基本的方向				評価実施年度	2026	R08
3-3	魅力的な商店街づくりや中小企業の創意工夫など商工業者自身による経営努力を支援するとともに、経営安定化や雇用維持のための公的支援策を通じて地元雇用の場としての商業・工業の活力を維持・向上させます。						
具体的な施策	商工サービス業の振興を図るため、地域経済の活性化を担う商工会議所への助成、建築業の人材育成を行っている建築職業訓練校への助成、リフォーム助成及び市内まちおこし団体への支援等を行います。				評価担当部課	総務部 財産管理課 経済部 観光商工課	
事業名	住宅リフォーム助成事業 三浦市経済対策利子補給金交付事業 地域活性化事業 商工団体育成事業 中小企業退職金共済掛金補助事業 マグロ茜身普及促進支援事業（※R07から開始）		事業費	年度		事業費予算額 （千円）	事業費決算額 （千円）
				R03	11, 093	10, 376	93. 5%
				R04	11, 517	11, 077	96. 2%
				R05	20, 695	12, 318	59. 5%
				R06	17, 343	15, 911	91. 7%
				R07	18, 169	17, 825	98. 1%
				計	78, 817	67, 507	

内部評価（1次評価）					
R7年度 の主な 取組と 工夫 （実績）	1：住宅リフォーム助成事業 ・市内施工業者により行う対象工事費20万円以上の住宅・マンションのリフォーム工事に対し、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、一律8万円の助成を99件行い、多数の業種にわたる中小工事業者の事業創出を促進し、市内全体の経済活性化及び住環境の向上に努めた。 2：三浦市経済対策利子補給金交付事業 ・10月から12月までの間に対象金融機関から融資を受けた市内中小事業者に対し、借入金の利子の一部を補助することにより、資金繰りとして融資を受けた中小企業者の経営の安定を図った。 3：地域活性化事業 ・三浦海岸地区活性化のための事業を推進する「三浦海岸まちなみ事業協議会」及び三崎下町商店街の活性化を図るために行われた「MISAKIぐるぐる春まつり」に対し運営費の一部を負担した。 4：商工団体育成事業 ・市内商工団体の経営安定と活性化を図るため、三浦商工会議所等に対して事業費の一部を補助し、商工団体の健全な育成を図った。 5：中小企業退職金共済掛金補助事業 ・中小企業者が負担する退職金共済掛金の一部を補助し、中小企業の振興と従業員の福祉の向上及び雇用の安定を図った。 6：マグロ茜身普及促進支援事業 ・三浦商工会議所とまぐろ未病改善効果研究会による、「茜身」のプロモーション、新メニューの開発、取扱店舗の増加の取組を支援した。 その他：物流に係る物価高騰対策事業 ・地域経済を支える重要なインフラである物流を維持するため、燃料費価格高騰の影響を受けている中小の貨物運送事業者に対し、支援金を交付した（国の交付金を活用し、補正予算により実施）。 ※施策No.2の創業・事業承継等中小企業支援事業として、三浦商工会議所、地域金融機関及び神奈川産業振興センターと連携し、市内で創業又は事業承継を行おうとしている事業者に対して支援し、中小企業者数の維持・増加を図った。				
	構成事業の令和7年度の主な取組と成果				
No.	事業名	主な取組・成果	No.	事業名	主な取組・成果
1	住宅リフォーム助成事業	補助金交付：99件	2	三浦市経済対策利子補給金交付事業	利子補給：65件
3	地域活性化事業	負担金交付：2件	4	商工団体育成事業	補助金交付：2件
5	中小企業退職金共済掛金補助事業	補助金交付：44件	6	マグロ茜身普及促進支援事業	「茜身」のプロモーション等の取組への支援：1件

K P I の進捗状況									
年	K P I ①		K P I ②		K P I ③		K P I 推移グラフ		
	法人市民税額（商業・工業）（千円）	備考							
H29	85,595	実績値							
H30	81,497	実績値							
R01	86,223	実績値							
R02	89,296	実績値							
R03	82,123	実績値							
R04	79,312	実績値							
R05	74,878	実績値							
R06	81,305	実績値							
R07	90,474	実績値							
R07	83,424	目標値							
達成状況	○								
K P I の分析	KPI① ・KPIは、建設業、製造業、卸・小売業を合計した法人市民税で、目標値はコロナ禍前の3か年の平均値となっている。 ・令和7年度は、90,474千円となり、前年度比9,168千円の増で目標値を上回った。また、平成29年以降最も高い値であった。 ・業種ごとの内訳は、下記のとおりでいずれの業種も前年度と比較し増加したが、特に建設業での増加が大きかった。 【建設業】22,079千円（3,618千円増（前年度比119.6%）） 【製造業】7,263千円（738千円増（前年度比111.3%）） 【卸・小売業】61,132千円（4,813千円増（前年度比108.5%）） ・3業種の法人数（令和7年度）は506事業所となっており、昨年度（513事業所）より若干減少している。 ・商工会議所の景気調査によると、令和7年度法人市民税に直結する令和6年度の景況感は、全体的に悪化傾向はあるものの、建設業・製造業については良化傾向が見て取れた。 ・同調査の「当面の経営上の問題点」として近年「仕入・材料価格の上昇」や「管理経費の増加」が最も高い傾向が続いている。ガソリン価格をはじめとする物価高騰が続いており、引き続き注視していく必要がある。						(※R07の「点」は、目標値となります。)		
	今後のK P I	現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位
	商工会議所会員数の減少率	2.43	R7.1.1時点	2.05	1.67	1.29	0.91	0.53	%

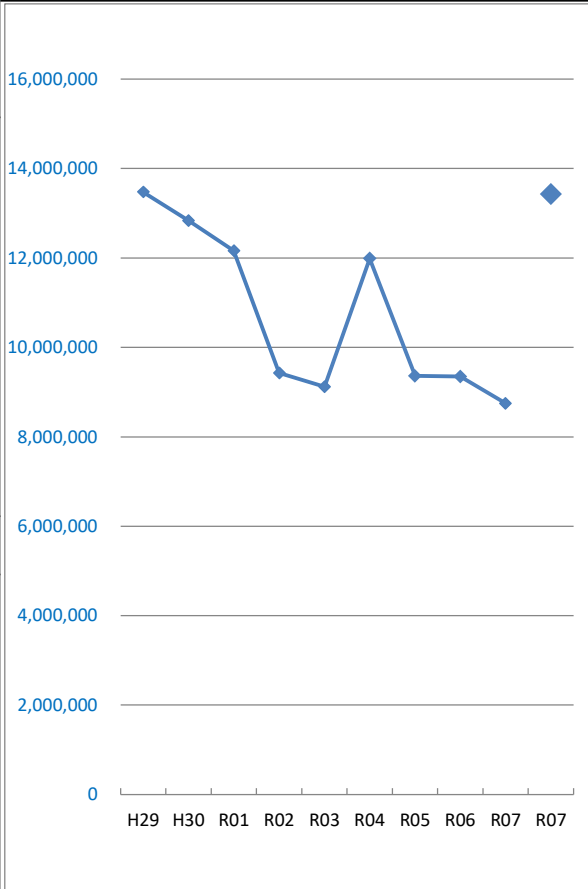
KPI達成に向けた課題と今後の改善策・手法	KPI達成に向けた課題 ・KPIの達成には、中小企業者に対する従業員の福祉の向上や雇用の安定化に資する切れ目のないサポートが必要であり、今後も中小企業者に対する管理経費軽減につながる支援を継続して実施することが課題である。
	今後行う改善策・手法 ・引き続き国内外の情勢と地域経済の動向を注視し、国の物価高騰対策に係る交付金等を活用した経済対策の実施を検討していく。 ・中小企業の経営安定のために行う、年末等の資金繰りとして融資を受けたときの借入金の利子の一部補助や中小企業の振興と従業員の福祉向上と雇用の安定化を図るべく退職金共済契約の掛金の一部補助といった支援は、管理経費軽減の一助となるので、継続していく。 ・商工会議所の中小企業相談所と連携し、創業や事業承継等の取組を通して商工業者の維持拡大を目指していく。 (施策No.2の創業・事業承継等中小企業支援事業として) ・三浦商工会議所、地域金融機関及び神奈川産業振興センターと連携し、創業と事業承継に関する相談窓口の充実を図るとともに、セミナーなどの開催や情報提供を積極的に行う。 ・神奈川県信用保証協会の保証を受けて神奈川県中小企業制度融資を受けた事業者に対し、信用保証料の一部を助成する信用保証料補助については、中小企業の経営健全化、事業の拡大、雇用の創出及び継続のため、引き続き実施していく。
内部評価結果	
施策の評価	5 目標達成しています。

外部評価（2次評価）			
施策の評価	5 目標達成しています。	主な意見	・主な意見なし

基本目標	基本目標 1 : 「三浦市における安定した雇用を創出する」 就職を契機に市外に転出することの多い若者や、転入しようとする人たちが、少しでも多く市内で就職することができるよう、観光業・農業・漁業など市内の主要産業の活性化を図り、雇用の場を確保します。 また、二町谷地区等への企業誘致により、新たな雇用の創出を図ります。	数値目標	個人市民税納税義務者数（給与所得者、営業所得者、農業所得者の数）【R07目標値】15,500人 【R03実績】16,113人 【R04実績】15,956人 【R05実績】15,944人 【R06実績】15,814人 【R07実績】15,842人

施策No.	基本的方向			評価実施年度	2026	R08		
3-1	漁港整備や経営支援、水産業従事者への各種支援を通じて、基幹産業である水産業の活力を維持し、市内における水産物の取扱量を維持・拡大します。							
具体的な施策	市内漁港の取扱金額を維持し、漁業及びその関連産業を活性化するため、安全・安心な安定供給とともに、三崎ブランドの価値向上や地域の活性化を目指し、国・県・関係団体と連携し、三崎漁港の高度衛生管理化を進めます。また、三崎漁港における高度衛生管理化を生かし、漁船誘致活動に取り組むとともに安全で高品質な三崎漁港の水産物の輸出促進を図ります。			評価担当部課	経済部 海業水産課 市場管理事務所			
事業名	市場高度衛生管理化対策事業 三崎漁港におけるグローバルブランディング戦略策定・推進事業 三崎漁港整備事業 市営漁港整備事業 水揚げ(出)港船対策事業 三浦市漁船建造等資金利子補給金交付事業 藻場保全事業（※R06から開始）						事業費	年度
				R03	90,196	52,070		57.7%
				R04	206,915	68,775		33.2%
				R05	387,695	187,520		48.4%
				R06	114,354	47,703		41.7%
				R07	386,956	369,770		95.6%
				計	1,186,116	725,838		

内部評価（1次評価）						
R 7 年 度 の 主 な 取 組 と 工 夫 （ 実 績 ）	1：市場高度衛生管理化対策事業 ・高度衛生管理化対策のための整備が完了した低温卸売市場及び沿岸卸売市場については、高品質な冷凍マグロ及び沿岸水産物の安定供給のため、関係機関と連携して高度衛生管理に適合した施設の管理運営に継続して取り組んだ。 ・令和7年度は共同加工場の設計に着手する予定であったが、関係する事業者の移転補償を先行するとなり、着手しなかった。 2：三崎漁港におけるグローバルブランディング戦略策定・推進事業 ・三崎水産物の輸出を促進させるため、また「三崎」ブランドを国内外に広く浸透させるため、第27回ジャパン・インターナショナル・シーフードショーへ三崎漁港輸出促進協議会として出展し、三崎漁港の水産物・水産加工品をPRし、商談などを行うことにより三崎漁港からの輸出促進を図った。 ・地域の衛生管理の意識を向上させるとともに、輸出促進や国内取引の推進に向けた基礎的な体制の構築を資することを目的とし講習会を開催した。 4：市営漁港整備事業 ・間口漁港の防波堤について、潜水探査により洗掘などによる損傷状態を調査し、その補修工事の発注に必要な実施設計を行った。 5：水揚入(出)港船対策事業 ・遠洋まぐろはえ縄漁船に対する水揚奨励金の交付を引き続き実施したが、例年行っている市内水産業界と連携した遠洋まぐろ漁船の基地港への表敬訪問については、日程が折り合わず、実施できなかった。 ・令和7年度の三崎漁港での遠洋まぐろはえ縄漁船の水揚隻数は、令和6年度より6隻減の7隻となった。 7：藻場保全事業 ・食害生物の除去や母藻の設置などを行う3組織を補助し、磯焼けの改善を図った。 ・日本テレビ放送網株式会社から三浦半島4市1町へ企業版ふるさと納税を活用した寄附を受け、二酸化炭素の吸収源である藻場の再生活動を行う2組織に補助を行った。					
	構成事業の令和7年度の主な取組と成果					
	No.	事業名	主な取組・成果	No.	事業名	主な取組・成果
	1	市場高度衛生管理化対策事業	共同加工場等の設計：0件	2	三崎漁港におけるグローバルブランディング戦略策定・推進事業	輸出促進に資する取組：2件
	3	三崎漁港整備事業	水産物供給基盤機能保全事業：2箇所	4	市営漁港整備事業	間口漁港防波堤調査実施設計委託：1件
5	水揚入(出)港船対策事業	三崎漁港で水揚げする遠洋まぐろはえ縄漁船の隻数：7隻 県外漁船の誘致活動：0回	6	三浦市漁船建造等資金利子補給金交付事業	造船建造等資金利子補給：5件	
7	藻場保全事業	藻場保全に取り組む活動組織への支援：3件 藻場造成に取り組む組織への支援：2件				

K P I の進捗状況									
年	K P I ①		K P I ②		K P I ③		K P I 推移グラフ		
	市内漁港水揚額（千円）	備考							
H29	13, 475, 515	実績値							
H30	12, 833, 430	実績値							
R01	12, 164, 341	実績値							
R02	9, 426, 649	実績値							
R03	9, 117, 889	実績値							
R04	11, 986, 532	実績値							
R05	9, 361, 524	実績値							
R06	9, 351, 504	実績値							
R07	8, 747, 078	実績値							
R07	13, 426, 000	目標値							
達成状況	×								
K P I の分析	・ KPIで設定している三崎水産物地方卸売市場の水揚金額と市営漁港の水揚金額とを合計した市内漁港取扱金額は、令和7年は87億4,700万円で、目標値134億2,600万円を46億7,900万円、34.9%下回った。 ・ KPI(平成28年から平成30年の平均値)と比較すると、沿岸・沖合漁業では4,698万円、5.1%上回ったものの、水揚と陸送品を合わせた遠洋漁業の冷凍品では12億6,676万円、41.9%、上場品の冷凍品では33億5,413万円、37.3%下回る結果となり、冷凍品の取扱額がKPI目標値を下回った主要因である。 ・ 冷凍品は、上場品が減少していること等により、取扱量は前年比で18.4%の減となっているが、取扱単価は増加しているため、取扱金額については7.2%の減にとどまった。 ・ 沿岸・沖合漁業では、取扱量は前年比で7.5%の減となったものの、サバのように取扱量が大きく増加し、取扱金額があまり変わらない魚種や、ブリのように取扱量が大きく増加し、取扱金額も微増している魚種もあり、取扱金額は前年比で1.5%の増となっている。 ・ 目標達成のためには、主力商品である冷凍マグロの取扱量の増加を目指すとともに、市内水産物の三崎魚市場への集約や、地元水産物のブランド化及びP Rを行うことにより、市内水産物の取扱量の増加と需要の拡大を図る必要がある。また、藻場を再生することにより、沿岸の水産資源の回復を図ることも重要である。								
今後の K P I		現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位
市内漁港水揚額		9, 351, 504	R 6 実績	9, 445, 018	9, 445, 018	9, 445, 018	9, 445, 018	9, 445, 018	千円

KPI達成に向けた課題と今後の改善策・手法	KPI達成に向けた課題 1：市場高度衛生管理化対策事業 ・高度衛生管理化対策を進めるため、共同加工場及び超低温冷蔵庫建設工事が遅れている。 ・高度衛生管理化対策のための整備が完了した低温卸売市場及び沿岸卸売市場については、より適切な管理運営に努め、今後もその価値を維持していくことが課題である。 2：三崎漁港におけるグローバルブランディング戦略策定・推進事業 ・三崎漁港の水産物の輸出拡大を目指すため、海外マーケットにおける三崎ブランドの認知度が低いため輸出の大幅な増となっていない。 ・海外の衛生管理基準に対応するため、漁業関係者の衛生管理意識の向上が課題である。 5：水揚入(出)港船対策事業 ・水揚げ量が減少しているため水揚額も増加していない点が課題となっている。 6：三浦市漁船建造等資金利子補給金交付事業 ・漁業者の新船建造や中古船購入による漁獲量向上に寄与するための、漁業者に対する制度の利用向上が課題である。 7：藻場保全事業 ・近年大きな問題となっている磯焼けにより、沿岸の漁獲対象物が減少している。
	今後行う改善策・手法 1：市場高度衛生管理化対策事業 ・共同加工場及び超低温冷蔵庫建設のため、関係者との調整をスピード感を持って進めていく。 ・高度衛生管理化対策のための整備が完了した低温卸売市場及び沿岸卸売市場については、高品質な冷凍マグロ及び沿岸水産物の安定供給のため、引き続き関係機関と連携して高度衛生管理に適合し、施設の価値を発揮できるよう適切な管理運営に取り組む。 2：三崎漁港におけるグローバルブランディング戦略策定・推進事業 ・これまで作成してきたPR資材を活用しながら「三崎」の水産物を宣伝し、国際的な三崎ブランドの認知度向上に努めながら、新たな輸出先を探している事業者の輸出を補助し、輸出増に寄与する。 ・引き続き、漁業関係者を対象とした衛生管理講習を行い輸出増加の基盤を強化する。 5：水揚入(出)港船対策事業 ・水揚げ金額向上のため、三崎漁港で水揚げした遠洋まぐろはえ縄漁船への奨励金を引き続き交付するほか、卸売団体と共同で基地港への表敬訪問を実施し、三崎漁港における冷凍マグロの水揚量の増加を図る。 6：三浦市漁船建造等資金利子補給金交付事業 ・漁船建造等に係る設備投資をしやすい環境の整備について関係機関と連携しながら取り組む。 7：藻場保全事業 ・引き続き、食害生物の除去や母藻の設置などを行う活動組織を補助し、磯焼けの改善を図る。
内部評価結果	
施策の評価	3 目標は全て未達成ですが、課題改善の取組が明確です。

外部評価（2次評価）		
施策 の 評価	3 目標は全て未達成ですが、課題改善の取組が明確です。	主な意見 ・主な意見なし

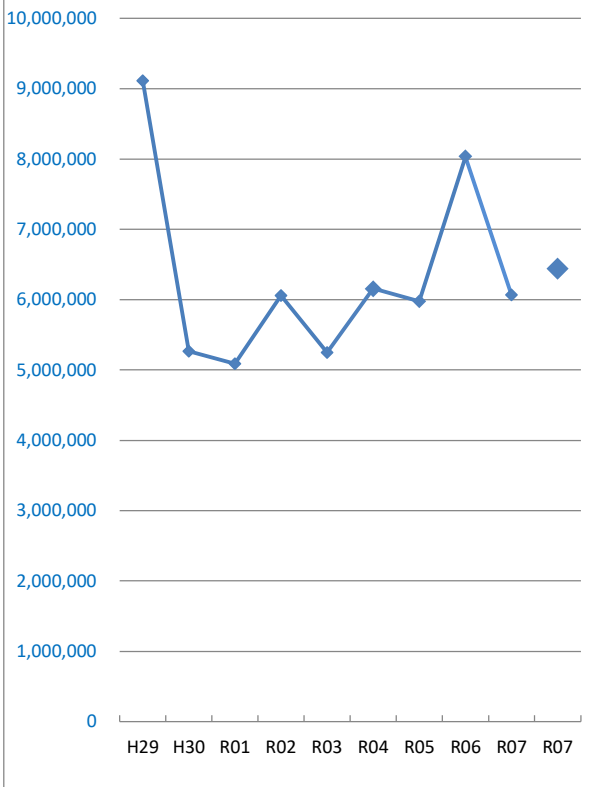
基本目標	基本目標 1：「三浦市における安定した雇用を創出する」 就職を契機に市外に転出することの多い若者や、転入しようとする人たちが、少しでも多く市内で就職することができるよう、観光業・農業・漁業など市内の主要産業の活性化を図り、雇用の場を確保します。 また、二町谷地区等への企業誘致により、新たな雇用の創出を図ります。	数値目標	個人市民税納税義務者数（給与所得者、営業所得者、農業所得者の数）【R07目標値】15,500人 【R03実績】16,113人 【R04実績】15,956人 【R05実績】15,944人 【R06実績】15,814人 【R07実績】15,842人

施策No.	基本的方向				評価実施年度	
3-2	良好な農地の整備・維持管理、流通システム環境整備、ブランド開発支援等により農業生産性を維持・向上させます。				2026	R08
具体的な施策	農業産出額を維持するため、畑地かんがい施設、農道、排水路の総合的な整備や有害鳥獣被害対策への取組などにより営農環境の改善を図るとともに、三浦市農業後継者対策実行委員会が実施する農業者と都市在住者との農業体験型交流イベントの開催を支援し農業後継者不足の改善を図ります。				評価担当部課	経済部 農産課
事業名	三浦野菜品種改良等支援事業 有害鳥獣被害対策事業 農業基盤整備事業 農業後継者対策事業 農業の多面的機能促進事業	事業費	年度	事業費予算額 (千円)	事業費決算額 (千円)	予算執行率
			R03	47,493	44,051	92.8%
			R04	45,170	41,444	91.8%
			R05	49,977	49,819	99.7%
			R06	56,291	54,627	97.0%
			R07	57,774	55,800	96.6%
			計	256,705	245,741	

内部評価（1次評価）	
R7年度の実績（取組と工夫）	1：三浦野菜品種改良等支援事業 ・農業生産を取り巻く環境が厳しくなる状況下で、消費者の志向を反映した作物づくり、栽培技術の向上、コスト削減、環境に優しい農業等が求められる中、三浦市の独自品種の改良と野菜品質向上のための技術に関して、三浦市農業協同組合が総合的に研究していることを支援し、本市農業の振興に努めた。 ・青首大根の有望品種の選定、三浦野菜品種改良、新品目野菜導入試験、緑肥普及拡大支援、交配用みつ峰の配置のほか、企業版ふるさと納税を活用し、三浦野菜の認知度向上と販路拡大につなげることを目的に、首都圏のこども食堂へ1年を通じて夏野菜や秋冬野菜を配布するとともに、うちわなども併せて提供し、三浦野菜の魅力を広く伝える取り組みを実施した。 主な試験品種：4件（早春キャベツ、寒玉系キャベツ、かぼちゃ果実の肥大化、すいか台木） プロモーション支援：1件
	2：有害鳥獣被害対策事業 ・市内各地で発生しているアライグマ及びハクビシンによる農産物被害、タイワンリスによる生活圏への侵入による生活被害など、地域生態系への環境被害に対応するため、三浦市農業協同組合と連携し捕獲檻の貸出を実施した。捕獲実績として、アライグマ83件、タイワンリス394件、ハクビシン23件、合計処理件数500件となった。 ※令和6年度486件→令和7年度500件 前年度比14件増
	3：農業基盤整備事業 (1)農とみどりの整備事業 ・県費補助対象事業として、小網代字新田地区の農道整備を行い、営農環境の向上を図った。（L=95m） (2)初声町下宮田地区畑地帯総合整備事業 ・県営事業として初声町下宮田字水余地区で実施されている道路整備の実施にあたり、事業費の一部を負担し、農業生産性の向上を図った。（道路整備：L=205m） (3)諸磯小網代地区畑地帯総合整備事業 ・県営事業として、三崎町諸磯及び小網代地区内約30haの土地改良事業区域において、畑かんがい用水設備、農道及び排水路等を総合的に整備するため、三浦市諸磯小網代土地改良区が実施している土地改良事業に対して補助を行い、事業の促進に努めた。（畑かんがい用管路布設：L=56m、舗装工：L=576m、計画樹立調査：一式）
	4：農業後継者対策事業 ・令和6年度に引き続き、交流イベント（男性農業者と女性参加者の交流の場を提供）を開催し、男性9人、女性11人に参加いただき交流を深めることができた。
	その他：トップセールス ・三浦市農業協同組合とともに、令和8年2月に東京青果株式会社、東京荏原青果株式会社、東京シティ青果株式会社を訪問し、流通販路の拡大を目指してトップセールスを行った。 その他：食品開発及び販売 ・大手企業及び三浦市農業協同組合と連携し、三浦市特産である春キャベツ及び大根を使用した商品（ハンバーグ）を販売し、三浦野菜の販路拡大に務めた。 また、昨年度に続き、京急グループ、農協、おつけもの慶と連携し、「三浦の大根使用カクテキ」を京急ストアなどで販売し、そして、今年度は三浦大根命名100周年を記念して、「三浦大根を使用したカクテキ」も数量限定販売し、地域の特産品の魅力の発信に務めた。 ※キャベツを利用したハンバーグ：令和6年度182,746食→令和7年度191,117食 前年度比8,371食増、大根を利用したハンバーグ：令和6年度97,416食→令和7年度137,606食 前年度比40,190食増 三浦の大根使用カクテキ 約1,000食 三浦大根を使ったカクテキ 約250食 その他：販路拡大等 ・三浦野菜の販路拡大を目指した取り組みにより、北海道での認知度が向上した結果、道内への早春および本春キャベツ、大根の出荷量増加に繋がった。 また、三浦大根命名100周年事業として、様々な取り組みを実施した。具体的には、食品会社との共同開発による「三浦大根を使ったカレー」を数量限定で販売したほか、人気飲食店で限定メニューとして提供し、新たな魅力を発信したほか、京急上大岡駅にて三浦野菜販売会を実施するなど、産地の魅力を広く発信し、消費拡大に努めた。

構成事業の令和7年度の主な取組と成果					
No.	事業名	主な取組・成果	No.	事業名	主な取組・成果
1	三浦野菜品種改良等支援事業	品種改良等試験：5件 プロモーション支援：1件	2	有害鳥獣被害対策事業	対象有害鳥獣処理件数：500件（アライグマ：83件、タイワンリス：394件、ハクビシン：23件）
3	農業基盤整備事業	小網代字新田地区農道整備：L=95m 下宮田地区畑地帯整備 排水路整備：L=0m 農道舗装整備：L=205m 諸磯小網代地区畑地帯総合整備 畑地かんがい用管路布設：L=56m 農道舗装整備：L=576m 計画変更：1式	4	農業後継者対策事業	農業体験型交流イベントの開催：1回
5	農業の多面的機能促進事業	農地維持活動の取組面積：40,035a	6		

K P I の進捗状況

年	K P I ①		K P I ②		K P I ③		K P I 推移グラフ
	農業産出額 (千円)	備考					
H29	9,116,629	実績値					
H30	5,267,403	実績値					
R01	5,089,707	実績値					
R02	6,058,325	実績値					
R03	5,249,001	実績値					
R04	6,158,181	実績値					
R05	5,977,551	実績値					
R06	8,037,061	実績値					
R07	6,066,805	実績値					
R07	6,442,000	目標値					

達成状況 ×

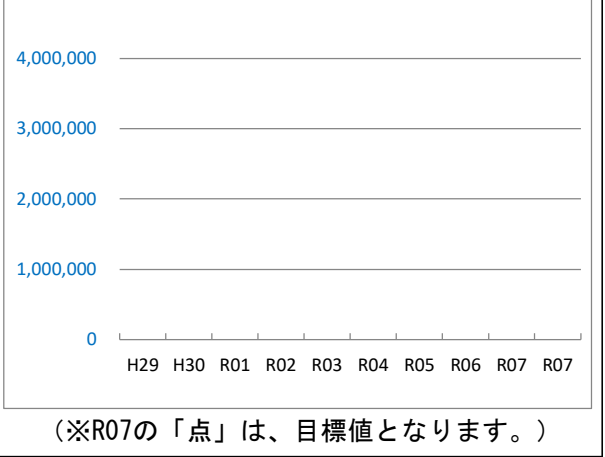
K P I の分析

- ・令和7年度は、気候変動の影響等により、春野菜は生育の遅れから販売が停滞し、秋冬野菜は作付け増加や豊作傾向のほか、輸入品の増加で流通量が過剰となり厳しい販売となった。一方、夏野菜は他産地の収穫終了が早かったことにより好調な販売であった。
- ・主要品目の状況だが、今期のダイコンは、乾燥の影響もあり、落ち着いて収穫できる状況であったものの、他産地が豊作傾向にあったことから、終始厳しい販売状況となった。
- ・キャベツは、高温と乾燥による生育不良の影響や、各産地からの出荷量の増加、輸入物の流通などが重なり、シーズンを通じて厳しい販売状況が続いた。
- ・夏野菜、特にスイカは天候にも恵まれ順調な販売となり、販売実績は前年度比123.1%となった。

・また平成30年度から始めたインターネットによる通信販売については、昨年度に引き続き好調を維持し、前年度比122.6%と売り上げを伸ばした。

・三浦野菜全体としては、冬春野菜は約20億8,469万円の減、夏野菜は約1億1,736万円の増、年間では約19億6,733万円の減となった。

・キャベツ販売実績（約1,041,878千円減）、ダイコン販売実績（約1,041,878千円減）、スイカ販売実績（約137,958千円増）、カボチャ販売実績（約22,828千円減）、カリフラワー販売実績（約6,753千円減）、通信販売（約2,531千円増）などにより、前年度から農業産出額が減少した。（約1,970,256千円減）



今後のK P I	現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位
農業産出額	5,633,361	H30～R5の 平均値	5,633,361	5,689,695	5,746,592	5,804,058	5,862,099	千円

KPI達成に向けた課題 今後の改善策・手法	KPI達成に向けた課題 1：三浦野菜品種改良等支援事業 ・露地野菜産地としての生産性や市場競争力を維持し、多様化する消費者の嗜好に対応するためには、次代を担う農作物の開発、栽培技術の向上、環境保全型農業の推進に加え、気候変動への適応を進める必要がある。 2：有害鳥獣被害対策事業 ・近年、有害鳥獣の捕獲数が増加傾向にあり、農作物被害だけに限らず生活環境被害も増えている。また、市域を越えて被害が拡大していることから、市単独での対応が難しい。 その他：食品開発及び販売 ・食品開発・販売については、農協と連携し三浦野菜を使用した商品化を行い現在も販売している。さらなる消費拡大のため、中食・外食・お土産向けの農産加工食品の開発に取り組む必要がある。 その他：販路拡大への取組 ・長年、取組んでいる課題であり、課題解消に向け市場関係者への広報活動など毎年行い新たな販路の開拓に取り組んでいるが、現状では厳しい状況にある。
	今後行う改善策・手法 1：三浦野菜品種改良等支援事業 ・三浦野菜の品質の優位性を維持することは、市場での高値での販売、産地間競争に負けないことであり、そのためには、生産性、栽培技術を向上させることや将来を見据えた新品種の開発等を絶え間なく試験・研究を行っていくことが不可欠であることから継続して支援を続ける。 2：有害鳥獣被害対策事業 ・有害鳥獣対策として、捕獲に協力してくれる方を増やすと共に、捕獲数が多い方々へ捕獲檻増設の協力要請を行い、防除拡大に努める。近隣市町村と連携し情報交換を行ってきたが、被害が市域を越え、横須賀三浦地域をも越えて拡大してきていることから、神奈川県全体で有害鳥獣の適切な駆除に取り組むよう要請をしていく。 その他：食品開発及び販売 ・農協と連携し、三浦野菜を活用した加工食品の開発提案を食品企業や関係団体に行う。また、加工食品の製造・販売を検討または関心のある農家に対しては、必要な設備や補助事業の活用について、関係機関と連携し支援を実施する。 その他：販路拡大への取組 ・販路拡大策については、農協と連携し、毎年トップセールスを実施している。今後は、これまで以上に農協との連携を強化し、販路拡大に取り組むとともに、地方市場の関係者に対する売込みの強化を図る。また、地場産消費拡大協議会農産分科会においても、販路拡大の実現に向けた具体的な取り組みを進めていく。
内部評価結果	
施策の評価	3 目標は全て未達成ですが、課題改善の取組が明確です。

外部評価（2次評価）			
施策の評価	3 目標は全て未達成ですが、課題改善の取組が明確です。	主な意見	・主な意見なし

基本目標	基本目標達成を支える基盤整備	数値目標	-	-
			-	-

施策No.	基本的方向				評価実施年度		
15	自然的土地利用と都市的土地利用のバランスのとれたまちづくりにより、市民の定住を確保するとともに転入者の増加を図ります。				2026		R08
具体的な施策	都市計画について、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（整開保）などを定めて都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分（区域区分）する「線引き」の見直しに資する取組を行います。 また、都市計画法第18条の2により規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」（三浦市都市計画マスタープラン）を定め、都市の健全な発展と秩序ある整備を図るため、適正な制限の下に土地の合理的な利用が図られるべきことを基本理念として、都市の整備、開発その他都市計画の適切な執行に努めます。				評価担当部課	都市環境部 都市計画課	
事業名	線引き見直し事業 都市計画推進事業	事業費	年度	事業費予算額 (千円)	事業費決算額 (千円)	予算執行率	
			R03	14,692	13,808	94.0%	
			R04	6,582	6,571	99.8%	
			R05	16,089	7,188	44.7%	
			R06	17,728	17,695	99.8%	
			R07	2,688	2,272	84.5%	
			計	57,779	47,534		

内部評価（1次評価）					
R7年度の主な取組と工夫（実績）	1：線引き見直し事業 （R3）都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分（区域区分）する「線引き」の見直しに向けて、県主体の都市計画基礎調査に活用される関係図書を、国の都市計画運用指針に基づき作成した。 また、令和3年度及び4年度の2年間で実施している都市計画基本図修正等業務において、2500分の1の基本図作成に取り組んだ。 （R4）令和3年度に引き続き実施した都市計画基本図修正等業務において、2,500分の1の基本図や10,000の1の全図、都市計画図を作成するとともに、その結果をわが街ガイド等に反映した。 （R5）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（整・開・保）を定めるために実施する県の線引き見直しに向けて、県が示す基本的基準に基づき、市の原案を作成し、県関係機関との調整・協議を行い、市の都市計画素案を作成した。 （R6）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（整・開・保）を定めるために実施する県の線引き見直しに向けて、市案の申し出を行った。 （R7）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（整・開・保）を定めるために実施した県の線引き見直しに伴い、関連する市の都市計画（用途地域・高度地区・下水道）を変更した。 2：都市計画推進事業 （R5）都市計画法第18条の2に規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定めた三浦市都市計画マスタープラン及び都市再生特別措置法第81条に規定されている立地適正化計画（住居及び都市機能増進施設の立地の適正化を図るための計画）の令和6年度の改定及び策定に向けて、関連計画の把握・整理や都市づくりの課題の整理等を行った。 （R6）都市計画法第18条の2に規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定めた三浦市都市計画マスタープランを改定し、都市再生特別措置法第81条に規定されている三浦市立地適正化計画（住居及び都市機能増進施設の立地の適正化を図るための計画）を策定した。 （R7）令和7年3月末に改定及び策定した三浦市都市計画マスタープラン及び三浦市立地適正化計画の印刷製本を行った。 また、立地適正化計画に定めた居住誘導区域及び都市機能誘導区域をインターネットを通じて閲覧可能とするため、都市計画情報提供サイト（みうらわが街ガイド）を更新した。				
	構成事業の令和7年度の主な取組と成果				
No.	事業名	主な取組・成果	No.	事業名	主な取組・成果
1	線引き見直し事業	（R3）都市計画基礎調査の図書等の作成：1件 都市計画基本図の作成：1件 （R4）都市計画図の作成：1件 全図（市全体の白地図）の作成：1件 わが街ガイド等の更新：1件 （R5）都市計画素案の確定：1件 （R6）整・開・保の市案申出：1件 （R7）用途地域の都市計画変更：1件 高度地区の都市計画変更：1件 下水道の都市計画変更：1件	2	都市計画推進事業	（R5）関連計画の把握・整理や都市づくりの課題の整理等の結果報告書作成：各1件 （R6）三浦市都市計画マスタープランの改定：1件 立地適正化計画の策定：1件 （R7）都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の印刷製本：1件 都市計画情報提供サイト（みうらわが街ガイド）の更新：1件

K P I の進捗状況								
年	K P I ①		K P I ②		K P I ③		K P I 推移グラフ	
	三浦市都市計画マスタープランの改定	備考						
H29		- 実績値						
H30		- 実績値						
R01	(改訂)	実績値						
R02		- 実績値						
R03		- 実績値						
R04		- 実績値						
R05		- 実績値						
R06	改定	実績値						
R07		- 実績値						
R07	改定	目標値						
達成状況	○							
K P I の分析	K P I ① 「三浦市立地適正化計画」の策定に合わせ、「三浦市都市計画マスタープラン」の改定を1年前倒しで達成した。							

今後の K P I	現状値	現状値の算出根拠	R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位
※施策の性質上、毎年度の設定が困難なため、施策全体のKPIは設定はしませんが、KPIが設定できる実施計画事業については、個別にKPIを設定し、適正に管理します。	—	—	—	—	—	—	—	—

KPI達成に向けた課題 今後の改善策・手法	KPI達成に向けた課題 2：都市計画推進事業 ・KPIは、令和11年度に都市計画マスタープランの方針との整合等を確認と設定する。 ・KPI達成に向けた課題として、人口減少・超高齢社会への対応、三浦市の「強み」の活用、市民・産業・交流を支える都市基盤の整備と維持管理、大規模災害等への対応、大規模な低・未利用地の活用の都市づくりの課題がある。 ※1：線引き見直し事業は、2：都市計画推進事業へ統合
	今後行う改善策・手法 2：都市計画推進事業 ・三浦市都市計画マスタープランに基づく個別の施策・事業の進捗状況については、都市計画基礎調査や三浦市立地適正化計画の評価を効果的に活用し、方針との整合等の確認を行う。 ※1：線引き見直し事業は、2：都市計画推進事業へ統合
内部評価結果	
施策の評価	5 目標達成しています。

外部評価（2次評価）			
施策の評価	5 目標達成しています。	主な意見	・人口減少や空き家対策に対し、コンパクトシティや立地の適正化など、新しいアイデアを持って取り組んでほしい。 ・観光振興としての道づくりや駐車場整備に課題が感じられるので、整備促進に努めていただきたい。

基本目標	基本目標達成を支える基盤整備	数値目標	-	-
			-	-

施策No.	基本的方向			評価実施年度		
16	窓口における来庁者に対する迅速かつ丁寧な対応を実践します。 インターネットをはじめとするITツールやその他各種の業務システムの整備とその有効活用により、業務管理と労働力にかかる費用を抑制します。			2026	R08	
具体的な施策	三浦市D X推進計画に基づき、デジタル技術を活用した取組を実施します。 マイナンバーカードの読み取りや職員が申請書作成を行う「書かない窓口」システムを導入することで、手続きに要する時間を短縮し、住民サービスと業務効率の向上を図ります。併せて、既存住民記録システムとの連携を構築し、入力業務の効率化と作業時間の短縮を図ります。 また、文書管理の様々な課題を解決し、より効率的な業務体制を実現するため、文書管理・電子決裁システムを導入します。			評価担当部課	政策部 デジタル課	
事業名	D X推進事業	事業費	年度	事業費予算額 (千円)	事業費決算額 (千円)	予算執行率
			R03			
			R04			
			R05	83, 191	80, 389	96. 6%
			R06	18, 975	17, 117	90. 2%
			R07	27, 449	26, 811	97. 7%
			計	129, 615	124, 317	

内部評価（１次評価）											
組R と7 工 夫 の 主 な 取 組 （ 実 績 な ）	1：DX推進事業 ・三浦市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画に基づき、デジタル技術を活用した取組を実施した。 ・一昨年度導入した住民異動受付支援システム「書かない窓口」の標準化対応を行い、さらなる住民サービスと業務効率の向上を図った。										
	構成事業の令和7年度の主な取組と成果										
No.	事業名		主な取組・成果				No.	事業名		主な取組・成果	
1	DX推進事業		DX推進事業に関するシステム（書かない窓口、文書管理・電子決裁、LINE、キャッシュレス決済、AI・RPA）の運用：5件 AI－OCR実施数：1件 RPAシナリオ配布数：1件 議事録作成に要する処理時間の削減効果：52.7%								
KPIの進捗状況											
年	KPI①		KPI②		KPI③		KPI④		KPI⑤		
	転入手続きに要する時間（分）	備考	転居手続きに要する時間（分）	備考	転出手続きに要する時間（分）	備考	住民異動に係るサービスの利用者数（人）	備考	書かない窓口システムへの住民満足度（％）	備考	
H29	—		—		—		—		—		
H30	—		—		—		—		—		
R01	—		—		—		—		—		
R02	—		—		—		—		—		
R03	—		—		—		—		—		
R04	—		—		—		—		—		
R05	49	実績値	41	実績値	19	実績値	191	実績値	97	実績値	
R06	47	実績値	40	実績値	18	実績値	1,455	実績値	99	実績値	
R07	47	実績値	39	実績値	18	実績値	1,242	実績値	96	実績値	
R07	38	目標値	30	目標値	15	目標値	3,500	目標値	80	目標値	
達成状況	×		×		×		×		○		
KPIの分析	・書かない窓口システム導入後における転入、転居、転出手続きに要する時間は47分、39分、18分で、すべての手続きにおいて、目標は未達成であった。 ・昨年度の時点ですでにシステム運用は成熟しており、さらなる時間短縮はできず、ほぼ同水準の実績となった。					書かない窓口システムは、申請書作成を窓口で職員が伴走するため、窓口の専有時間はむしろ長くなることがある。待ち時間の削減を優先しシステムを利用しないことがあったため、利用者数は増加しなかった。			依然として不満を示す回答はなく、高い満足度は維持できている。		
今後のKPI		現状値	現状値の算出根拠		R8目標	R9目標	R10目標	R11目標	R12目標	単位	
事務の削減時間数		—	—		860	970	1,080	1,190	1,300	時間	
オンライン化する手続き数		21	R6実績		35	40	45	50	55	件	

KPI達成に 今後の改善策・手法と	KPI達成に向けた課題 ・事務の削減時間数 すでに導入しているデジタルツールを主として事務の効率化を図り、所要時間数の削減に取り組んでいく。しかしながら、現状では事務に従事する職員の間でデジタルツールに関する理解が浸透しているとは言えず、限定的な展開となってしまうため、十分な削減効果を得られていない。 ・オンライン化する手続き数 すでにオンライン化されている手続きについて、特定のものを除けば利用者数が決して多くないという実績があるため、他のそれぞれの業務を担当する職員がオンライン化のメリットや動機を明確に見いだせず、結果としてオンライン化推進に慎重な姿勢になっていると考える。
	今後行う改善策・手法 ・事務の削減時間数 事務に従事する職員のデジタルリテラシーの向上が必須であると考えするため、庁内研修をはじめとしたデジタル分野の啓発に積極的に取り組んでいく。 ・オンライン化する手続き数 オンライン手続きの利用者数を増やすことが、オンライン化する手続き数の増加を助長することができるため、項目数も多く、複雑な行政手続きよりも、利用しやすい、身近な、イベント申込等について、デジタル課職員が支援し、優先的にオンライン化を進めていく。
内部評価結果	
施策の評価	4 目標は一部達成し、課題改善の取組も明確です。

外部評価（2次評価）			
施策の評価	4 目標は一部達成し、課題改善の取組も明確です。	主な意見	・まだまだペーパーレス化に改善の余地があるので、より一層の取組の推進をお願いします。